平成 22 年度　香川大学卒業式　学長告辞

まずは日本の歴史上未曾有の大災害に触れなければなりません．去る 3 月 11 日午後 2 時 46 分に M9.0 の東北地方太平洋大地震が発生し，それに伴って発生した津波による被害を含めると，死者･行方不明者 22,000 人以上の大災害になりました．東北関東大震災による被災者の皆さまにお見舞い申し上げます．国の内外からの支援の輪が広がっており，香川大学においても教職員はもちろん学生諸君も義援募金活動に加わってくれております．一日も早い復興を願っておりますが，東日本の復興は 21 世紀に生きる私たち日本人の新たな目標であると考えております．

今年の冬が例年より寒かったせいもあり，庭先のモクレンの花も開き始めたばかりですが，サクラの開花は例年並みのようであり，着実に春が近づいてきております．

本日，ここに本学における 4 年または 6 年の課程を修了し，学位記を授与された 1209 名の諸君，卒業の日を迎えられたことを心からお祝いします．また，卒業式を君たちと共に迎えられることは，我われ教職員にとっても大きな喜びであります．

香川大学在学中にそれぞれの学部における専門的知識だけでなく，これからの人生にとって有益な様々な資産を得たと思います．サークル活動や研究室，ゼミなどのグループを通して，忘れがたい思い出を胸にしるした人や頼りがいのある親友を見つけた人，忘れがたい恋愛相手と出会った人もいるでしょう．また，生涯をかけて取り組み，挑戦したいと思う研究課題や夢を見つけた人もいることでしょう．それらは君たちの将来にとって貴重な経験であると同時に，大きな財産であります．それらの財産の中には大学生時代にしか得られないものがあると

思います．一般社会の組織では人と人との間に何らかの利害関係が存在するのが通常ですが，学生と教員との間及び学生相互の間には利害関係のないのが大学の特徴であり，その意味においても大学生活から得られるものは将来にとって他に換えがたい資産であります．

近年の世界の動きは激しく，また常に日本はもちろん世界中を巻き込んだ形で動いています．1990 年代を見ても，東西ドイツの統一にはじまり，湾岸戦争，ソビエト連邦崩壊，EU の発足がありました．2000 年代に入ると，アメリカ同時多発テロからはじまり，イラク戦争，BRICs の台頭，リーマンショックによる世界同時不況，日本の人口減少などがありました．最近では，中国の GDP が日本を抜いて世界第 2 位になったことやエジプトに代表される中東の政情不安，さらには東北関東大震災をあげることができます．社会のグローバル化が進み，変化の著しい最近の世の中では20年先，30年先の社会の姿を予見するのは不可能に近いと思われます．言い換えれば，組織や企業の栄枯盛衰を見極めることができないことを意味しています．

ここにいる卒業生の多くの人は，明日からはサラリーマンと思っているかも知れませんが，その考えは捨てたほうがよいと思います．日本のかっての高度成長社会においては，それでよかったのですが，いわゆる「サラリーマンの時代」はもはや終わったと言われています．組織の上司から言われたことさえやっていれば，何も考えなくても給料がもらえる時代は終わっています．ある著名な経営者があるところに書いていました．部下が報告にくると，必ず「君はどう思うか？」と尋ねたそうです．自分の仕事に対してどう考えるのか．自分はどうしたいのかの答えを持っていないと報告ではないと言っていたそうです．一人一人が今やるべきことを考え，他人から与えられる運命ではなく，自らが主役となって運命を切り開いていくことが求められています．このことは，「サラリーマンの時代」の終わり，組織に頼る時代の終わりを意味しており，みんなに「自営業者になれ」と言っていることに

なります．

君たちに求められているものは，単なる知識ではなく，「生きた知恵」であり，「生きた技術」であり，「生きた人間関係」であります．君たちは，卒業論文や卒業研究を通して，新しい知識や技術が創造される瞬間をほんの少しだけ経験したはずです．また，課外活動等からも多くのことを修得したことと思います．香川大学で学んだ素養を基本的資産とし，それにたゆまぬ努力とチャレンジ精神を加味し，君たちなりの「生きた知恵」，「生きた技術」，「生きた人間関係」に作り上げ，組織に頼らない個人の能力が問われる時代にふさわしい社会人に成長することを期待しています．

人生には継続的な努力が必要といわれています．それに関連して，2009 年にノーベル賞を受賞し，オワンクラゲで有名になった下村先生が次のようなことをあるところに書いておられました．ノーベル化学賞の対象となった緑色蛍光たんぱく質の発見までにはさまざまな幸運と巡り合わせがあった．そのような思わぬ偶然を引き寄せることができたのは，少しの失敗を気にせず，あきらめずに努力したためである．試練には何度となく直面したが，私は逃げることを考えなかった．また，実験は上手でなく，よく失敗するが，簡単にあきらめない，と書いておられました．

中国の三国志で有名な諸葛孔明が残した言葉に「寧静到遠」（ねいせいちえん）というのがあります．この言葉は，諸葛孔明が息子にあてた「誡子書」という遺書の中の一節で，「誠実でコツコツした努力を続けないと遠くにある目的に到達できない」，という意味だと言われています．

さらに，「夢をつかむことは，一気にできません．小さな事を積み重ねることで，いつの日か，信じられないような力を出せるようになってきます」．これは，マリナー

ズのイチローの言葉です．

下村先生も諸葛孔明もイチローも継続的な努力が新しい道を拓くと言っています．香川大学での忘れがたい思い出を時には思い出しながら，また頼りがいのある親友の助けをたまには借りながら地道で着実な努力を重ねることを願っています．

香川大学は卒業生を大学の重要な構成員と考えています．仕事上でのアドバイスが必要になった時，再び学ぼうと思った時は私たちは君たちを暖かく迎えます．私たち香川大学の教職員は，君たちが卒業した後も君たちに対してできる限り支援し，君たち卒業生との交流を持ち続けたいと考えていますので母校との交流をぜひ継続してくれるように願っています．

教育は国家の根幹を成すものであります．よく言われますように，自然の資源が乏しい我が国にとって，優秀な人材が最大の資源であります．そのような意味からも大学に対する社会の期待はますます高まっています．香川大学にとってもっとも重要なことは，迎え入れた若い人材を 21 世紀の社会で通用する人材に育て上げ，日本はもとより世界へ送り出すことです．君たち一人ひとりが未来に大きな夢を描き，その夢に向かって努力し続けることが人生であり，すばらしいことであると思います．また，香川大学を巣立つ君たちが，新しい環境のなかで，君たち自身の周りに対して，また地球社会の持続的発展のために何ができるかを常に考え，行動されることを期待して告辞といたします．

平成 23 年 3 月 24 日

香川大学長　一井　眞比古